



「水防災意識社会」の再構築に向けた取組として、地方公共団体への減災・防災に関する国の支援の拡充が求められています。琵琶湖河川事務所では、大規模自然災害の発生に備えた初動対応能力の向上を目的に、大津市が実施する令和元年度『大津市総合防災訓練』に出席し連携強化を図りました。

この訓練は、地域住民と一体となった総合的な防災訓練であり、災害発生時の応急対策に関する検証と市民の防災・減災意識の高揚を図り、一人一人が安心、安全に暮らすことのできる災害に強いまちづくりの推進を目的としています。

- 日時：令和元年9月15日（日）8:30～11:30
- 場所：大津市立藤尾小学校他
- 参加機関：大津市、伊賀市、鈴鹿市、奈良市、宇治田原町、京都市、関西電力(株)、陸上自衛隊、大津警察署、大津市消防団、彦根地方気象台など48機関
- 参加人数：約2,000人

位置図



実施した主な訓練

訓練状況（ドローンによる現場状況の把握）



救助用ヘリコプター



水陸両用バギー



救命訓練



火災救助訓練



閉会式

閉会式では、越大津市長の講評、藤尾学区自治会長の講評がありました。



越 大津市長



藤尾地区自治会長



琵琶湖河川事務所
竹中副所長が参加しました。

訓練のポイント

- 震度7の地震が発生し、雨による土砂災害の危険があると想定した訓練で、市や各機関、地域住民などが協力して防災意識を高め、連携を確認。
- 分散型訓練として複数の会場で同時に訓練が実施。
- 今回初めて、同市と避難所の相互利用に関する協定を結んでいる京都市も参加。市境を越えた広域避難訓練の実施。
- 土砂災害発生を想定した訓練では、水陸両用バギーやドローンも登場。

琵琶湖河川事務所は、今後も引き続き地域の実践的な訓練に積極的に参加し、連携強化を図っていきます。

